

令和7年度 江東区立有明西学園 自己評価表

校長名 井熊 豪

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		有明西学園のこれまでの軌跡を大切に、新たな歴史を創る			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	有明西学園の目指す教育の姿について、教職員が共通認識をもてるよう、校長通信を年70回以上発行し、それに基づいた教育活動を推進している。	100%	保護者アンケート「学園は、校訓『力いっぱい～Do my best!～』の下、今年度テーマ「This Is Ari-nishi!」を掲げ、教育活動の充実を図ることができている。」の項目について85%以上の肯定的評価	100%	A
2	有明西学園の目指す教育の姿、特色ある教育について、有明西学園ホームページで、年間200回以上情報発信する。	100%	保護者アンケート「有明西学園は、ホームページや学園通信、学校公開や行事の参観等を通じて情報発信に努めている。」の項目について85%以上の肯定的評価	100%	A
3	こどもの意見表明に基づいた教育活動を年間10回以上実施する。	70%	児童・生徒アンケート「学校は、自分の考えを生かす機会を設定している」の項目について85%以上の肯定的評価	100%	A
<p><結果についての分析と改善策> ほぼ全項目において100%を超える達成度があった。これらの取組について今後もより高い成果を上げられるよう指標を高めながら教育活動を行っていく。 結果として意見表明を行う活動を行ったものの、子供の意見表明権について触れる機会が少なかったため、来年度は意見表明権に関する知識を朝会等で伝えていきたい。</p>					

重点領域 2		「優しい人」の育成 ～有明の優しい風になる～			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	児童・生徒が主体的に取り組むスマイル・プロジェクトの活動を年間5回以上実施する。	100%	児童・生徒アンケート「スマイル・プロジェクト」について90%以上の肯定的評価	100%	A
2	ふれあい月間（6・11・2月）に児童会・生徒会を中心とした、いじめ対策等に関する活動、他者と関わる活動を年間3回以上実施する。	80%	保護者アンケート「学校は、いじめ対策について、しっかりと取り組んでいる」85%以上の肯定的評価	100%	A
	学校のいじめ防止に関する取組について、ホームページで年間5回以上発信する。	60%			
3	特別の教科道徳の授業では、内容項目の「親切・思いやり(前期課程)、思いやり・感謝(後期課程)」と「生命の尊さ、自然愛護」に重点をおいた指導をすべての学級で行う。(100%)	100%	児童・生徒アンケート「道徳の授業を通して、『思いやりの気持ちを持ち親切にすること』『生命や自然を大切にすること』について考えを深め、実践できた」90%以上の肯定的評価。	100%	A
			児童・生徒アンケート「教育目標『優しい人』についての自己評価」90%以上の肯定的評価		

<様式1>

<結果についての分析と改善策>
 スマイルプロジェクトは各学年の役割を明確化することで、児童生徒が意識をしながら年10回取り組んだ。
 日常的に他者を大切にする教育活動を心掛けているものの、「いじめ防止」に特化した活動は弱いと考えている。来年度改善を図っていく。

重点領域3		「学び深める人」の育成 ～有明から輝く人になる～			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	有西授業スタイルに基づく授業をすべての授業で実施（①～③、④の内、1つ以上を実施）する。（100%）	90%	保護者アンケート「有西授業スタイルに基づく授業」について90%以上の肯定的評価。	100%	A
2	教科担任制、交換授業、習熟度別指導による専門的な指導を充実させ、児童生徒の学習理解度を高める。	70%	児童・生徒アンケート「前よりもよく分ることが増えている」について85%以上の肯定的評価	100%	A
3	全教員が、指導する教科について9年間の系統性を意識しながら、こどもの主体性を育む授業となるようマネジメントしていく	100%	児童・生徒アンケート「授業では学ぶことを『自分ごと』として考え臨んでいます」について80%以上の肯定的評価	100%	A
4	「学び方スタンダード」について毎月の重点目標を設定し、確実に身に付けられるよう、全学級で効果的な指導を実施する。	75%	児童・生徒アンケート「学び方スタンダード」の自己評価について85%以上の肯定的評価。	50%	B
5	すべての学級で、昼読書を確実に実施し、児童生徒が読書に親しむ機会の充実を図る。（100%）	100%	児童・生徒アンケート「昼読書にしっかりと取り組んでいる」について90%以上の肯定的評価	100%	A
			児童・生徒アンケート「教育目標『学び深める人』についての自己評価」の肯定的評価を90%以上にする。	100%	A

<結果についての分析と改善策>
 こども側の成果指標については多くの項目で達成度をこえたものの、学び方スタンダードの自己評価については85%以上の肯定的評価があったものが半分にとどまった。「できているか」と評価しているためだと考えられるため、来年度は意欲について尋ねる項目としていきたい。
 教科担任制等については、その学年にとって最適なタイミングで行っているが、「より多くの目で子どもたちの良さを見つける」ということについては日常的に取り組めるように教師が意識を高くもてるようにしていきたい

重点領域4		「挑戦する人」の育成 ～有明のみんなの夢になる～			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	発達段階を考慮しながら児童・生徒が自分の設定した課題に基づき、粘り強く解決に臨む機会を年間2回以上設定する。	65%	児童・生徒アンケート「自分で目標をたて、実現を目指しながら、「挑戦する人」になれるよう、がんばっています。」について90%以上の肯定的評価	98%	A
2	授業において、達成感を感じる機会を各教科年間2単元以上設定する。	50%	児童・生徒アンケート「保健体育の授業の中で、前よりもできるようになったことがあります」及び「前よりもよく分かることが増えている」について85%以上の肯定的評価	100%	A

<様式1>

3	オリンピック・パラリンピックを経験した人、目指す人、支える人たちやアスリートの方々から「挑戦すること」の大切さについて学ぶ機会を年間3回以上実施する。	100%	児童・生徒アンケート「ゲストティーチャーのお話や交流を通して、挑戦することの大切さを学ぶことができた」について95%以上の肯定的評価	96.5%	A
	ポッチャをスクール競技として取り組み、全校児童・生徒がポッチャを理解し、親しむ活動、学級が一体となる学習、障害者理解につながる学習を年6回以上実施する。	100%	児童・生徒アンケート「ポッチャに親しむこと」について80%以上の肯定的評価	100%	A
	「KOTO☆キッズながなわチャレンジ」、「ポッチャ大会」に全校で、年間2回以上取り組む機会を設ける。	100%	ながなわについては各クラスが年間1回以上は、クラス目標を達成する。	40%	C
			児童・生徒アンケート「教育目標『挑戦する人』についての自己評価」の肯定的評価を90%以上にする。	100%	A
<p><結果についての分析と改善策> こども側の指標においてはながなわを除きすべての項目で98%以上の達成度を示した。ながなわのクラス目標の設定について十分に根拠がないなかで立てるため、目標としてはそぐわないと反省している。また、「粘り強く解決に臨む」「達成感を感じる」授業は、総合的な学習の時間を中心として全学級に浸透していくように組織的に取り組んでいくこととする。</p>					

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）